

# SDGs ひろしまファクト

# 森のサイクル守ろう



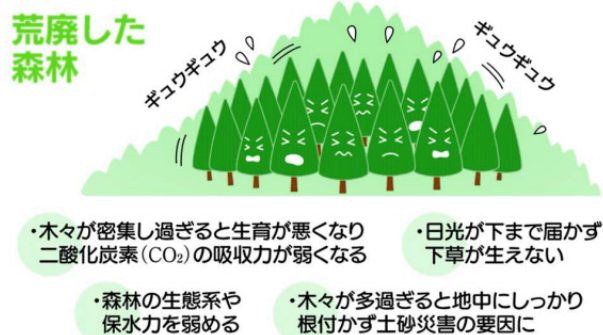
SDGs (持続可能な開発目標) の広島県の現状を紹介する「SDGsひろしまファクト」の第9回は、目標15「陸の豊かさを守ろう」がテーマです。県内で土地の多くを占める森林は、豊かな

生態系を保ち私たちの生活も支える存在。その役割を守るには人工林や里山林を放置せず、適度に人の手を入れる必要があります。(服部良祐)

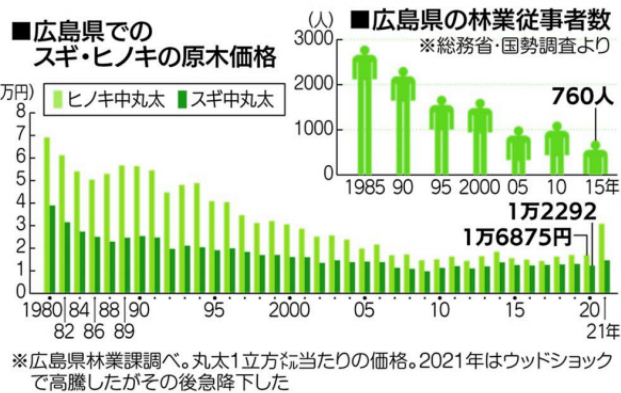
「ひろしまファクト」は中国新聞デジタルにも掲載しています



## 荒廃した森林



## 原木価格の低下や林業の担い手の減少が背景に



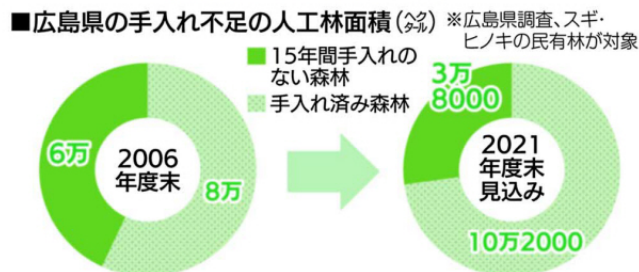
豊かな森を守るために

## 森の役割



里山林は人工林ではないが、たきぎ集めなど人の生活と結びついていたものを指す。近年は役割が薄れ適切な手入れが必要となっている

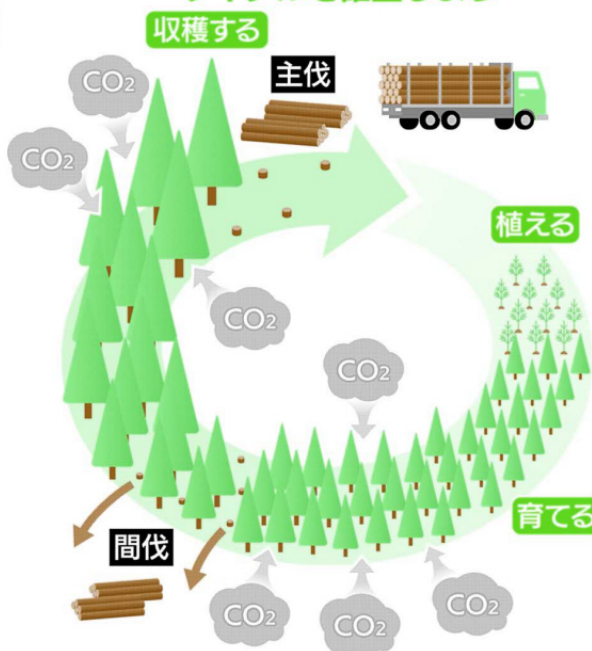
## 森林の管理はまだ途上



## 広島県内の森林の現状



## サイクルを確立しよう



## 間伐材などの活用例



広島県産ヒノキなどを活用した一場木工所(三次市)の「もりのらく」



グラフィック・大友勇人

県立広島大 小林謙介准教授

## 国産材の価値感じて



森林の役割について、都市部で暮らす人は縁遠く感じるかもしれません。森林資源や林業に詳しい県立広島大(庄原市)の小林謙介准教授は「日常で使う木製品がどうできたのかを知り、価値を見いだすことが大事」と話します。

人工林は畑に例えることができます。過密に苗を植えた後に間伐を繰り返すことでまっすぐに育て、材木として使えるまで成長すると伐採し、また苗を植えます。森林が荒廃する理由として「途中で間引き(間伐)しない」「収穫(伐採)

しても次の苗を植えない」問題があります。背景の一つが、輸入材への依存による国産材の価格低迷です。木材が高く売れないため林業の担い手が減り、森林が管理されない悪循環が起きています。間伐や植林を怠った結果、次の世代で国産材が急に必要になっても資源が足りず、しっぺ返しを食らう恐れも。長期的な視点が必要です。

森林は木材の供給だけでなく、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の吸収や土砂災害の防止など、人の命にも関わる重要な役割があります。例えば、身近な木製品がごこの木材で作られたか知ってほしい。地元の木材で作られたのなら、海外産と比べて輸送などで出るCO<sub>2</sub>は大きく抑えられます。国産、県産に価値を見いだすことが林業や森林の持続につながります。

毎月第3木曜に掲載します